

「地域性で勝負 離島テレワークの挑戦」

株式会社ブルー・オーシャン沖縄
公共SI事業部統括 執行役員
崎山喜一郎



沖縄の離島

有人島が47島

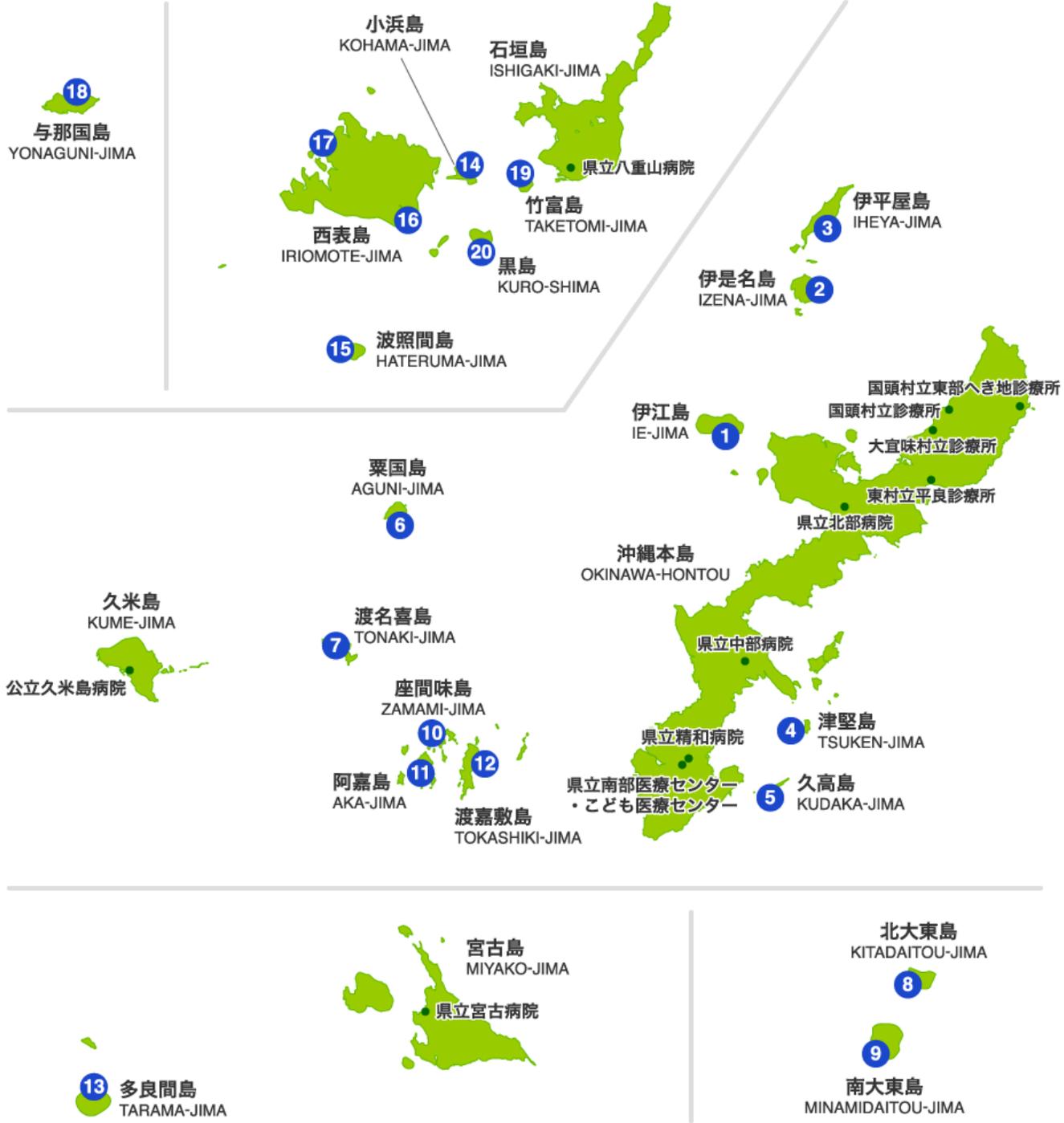
離島全体の人口は13万人

<内訳>

宮古島・石垣島・久米島で10.5万人

2.5万人がその他44島に住んでおり

“小規模離島”と呼ばれる



離島振興の究極的な目標 = 無人島化しない

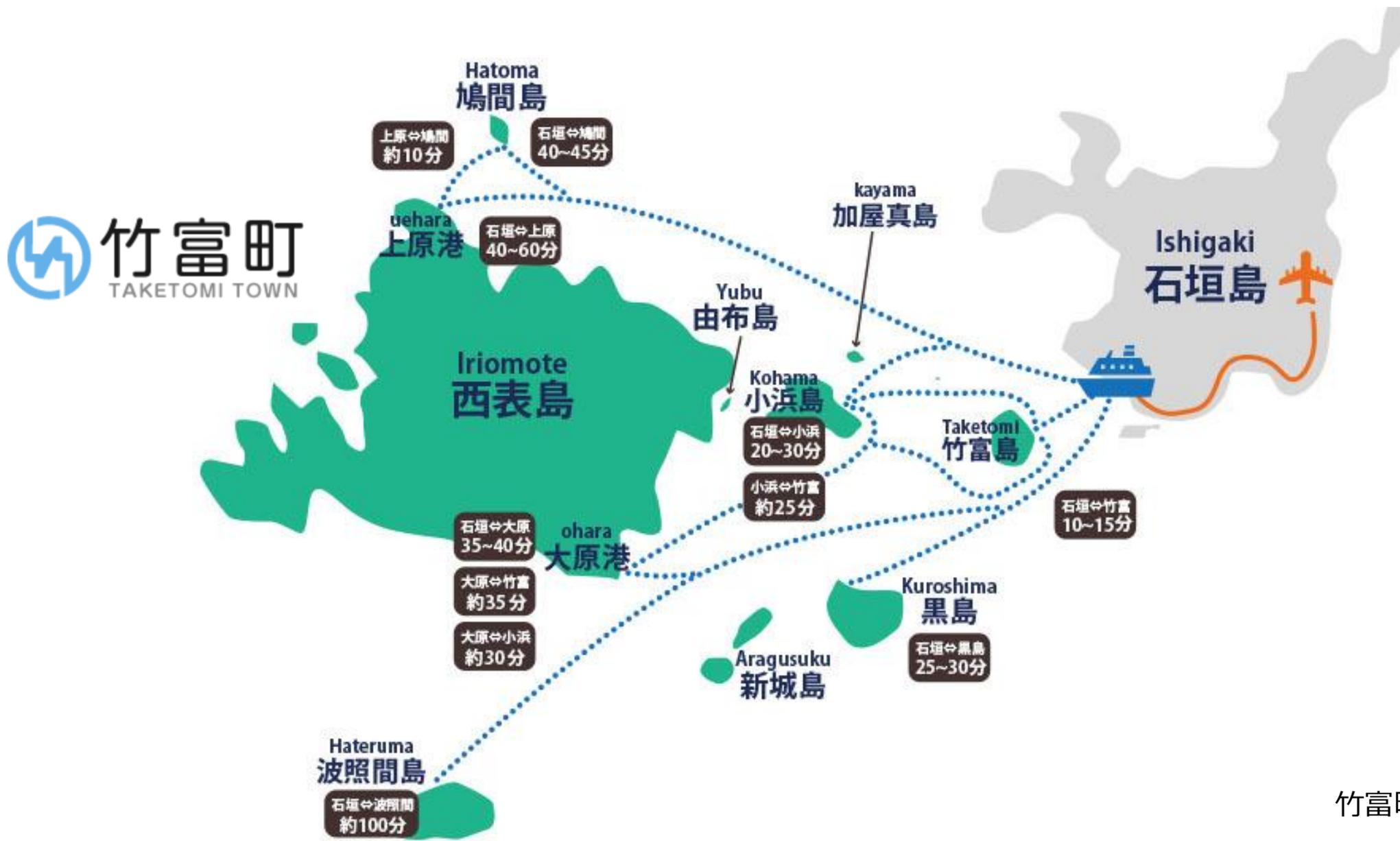
離島振興法に明記



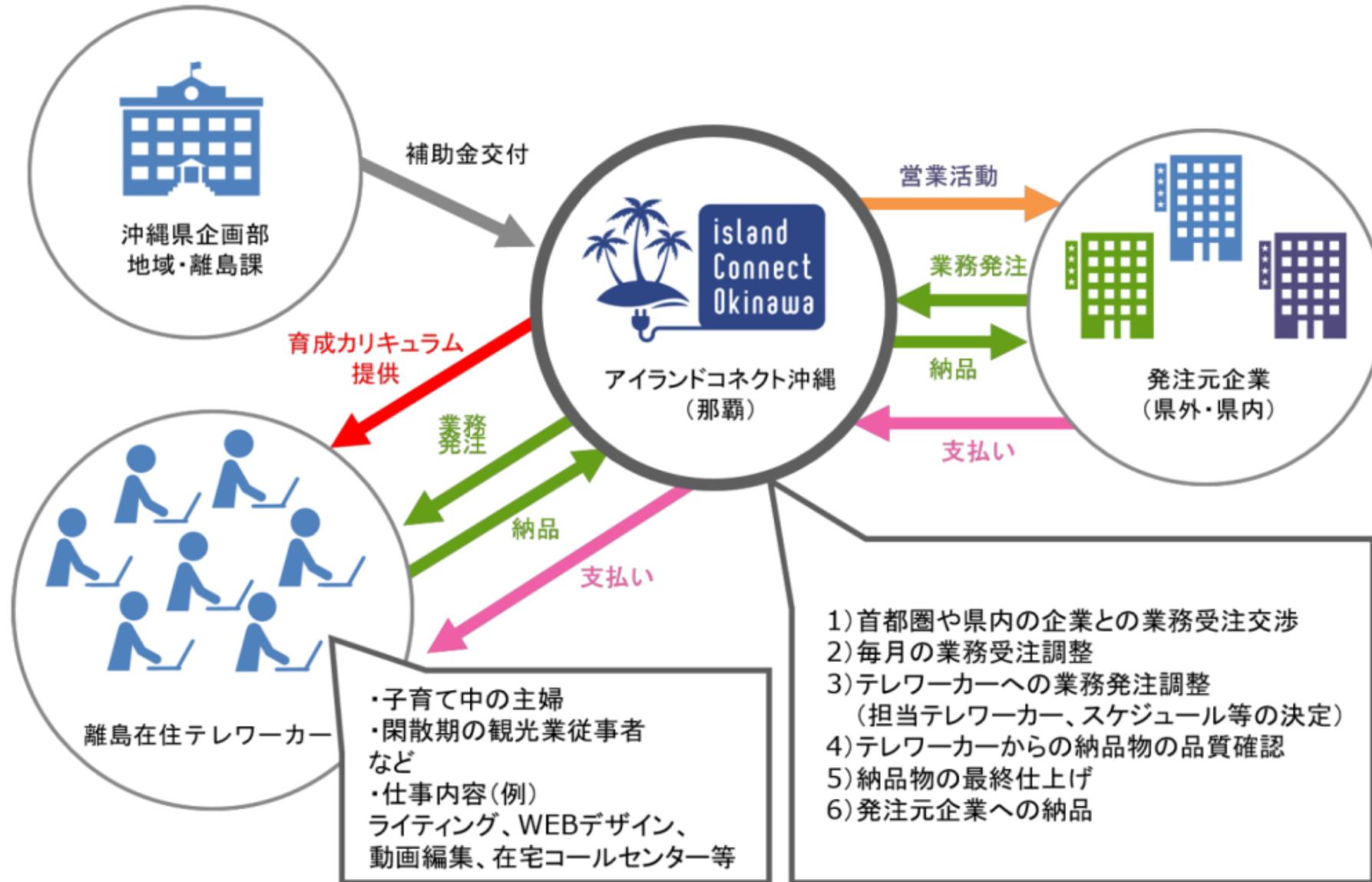
沖縄県企画部地域離島課

離島の暮らしやすさを向上させる様々な施策を実施

沖縄県離島におけるテレワーク導入の背景



事業実施形態 離島テレワーク人材育成事業（2019年度～2021年度）



クラウドソーシング並の気軽さと企業並の品質管理を実現

事業実施中に見えてきた課題

テレワーク = 場所を問わない = 場所はどこでもよい



沖縄の離島へBPO発注する必然性がない



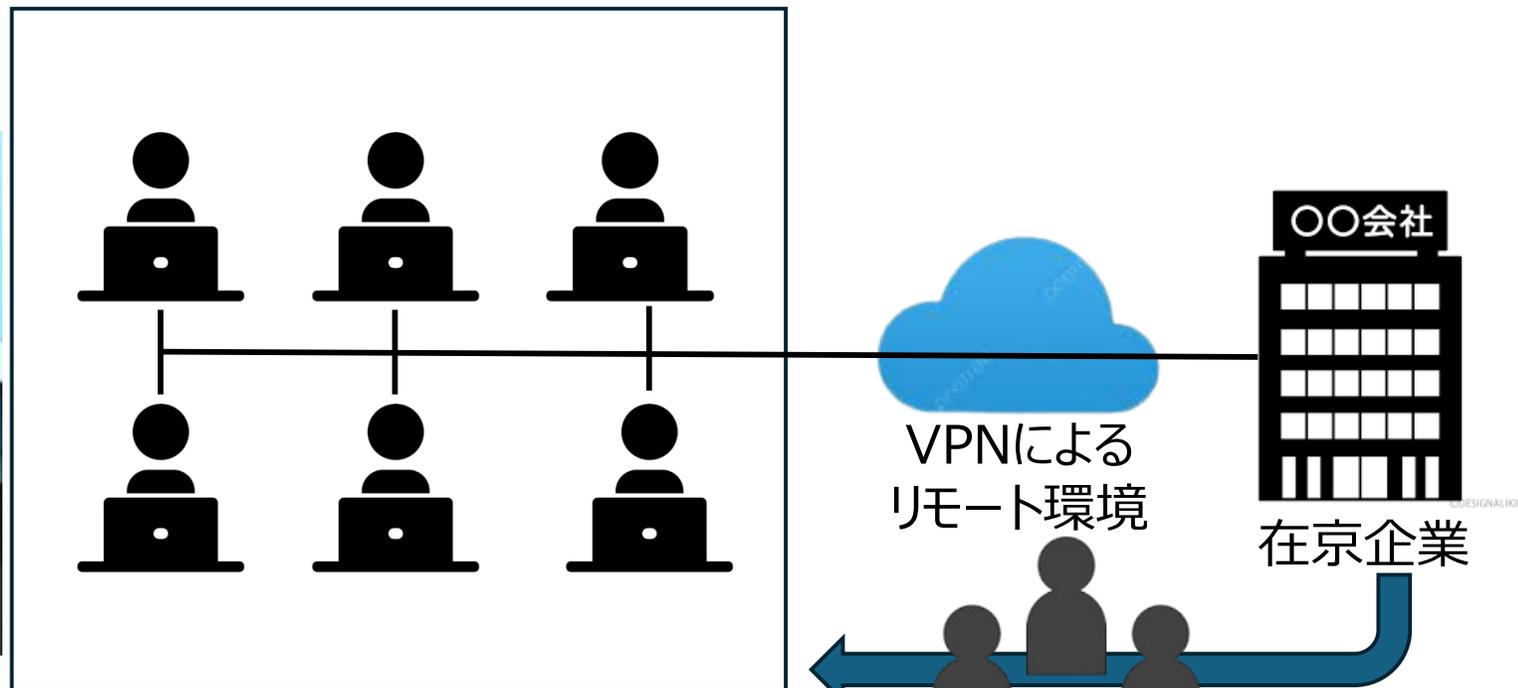
地域特性を必然性に変える戦略が必要

2022年度～離島ICT利活用人材等高度化補助事業

在宅では不可能な機密度の高いデータを取り扱うことができ収益増加
(ブランチオフィス型テレワーク)



宮古島ICT交流センター
(インキュベーション)



- 物理セキュリティの強化
- ・教育
 - ・入退室管理
 - ・私物持ち込み不可等

社員による研修
拠点監修
ワークーション

国内有数のリゾート地だからこ見えてきたワーケーションの形



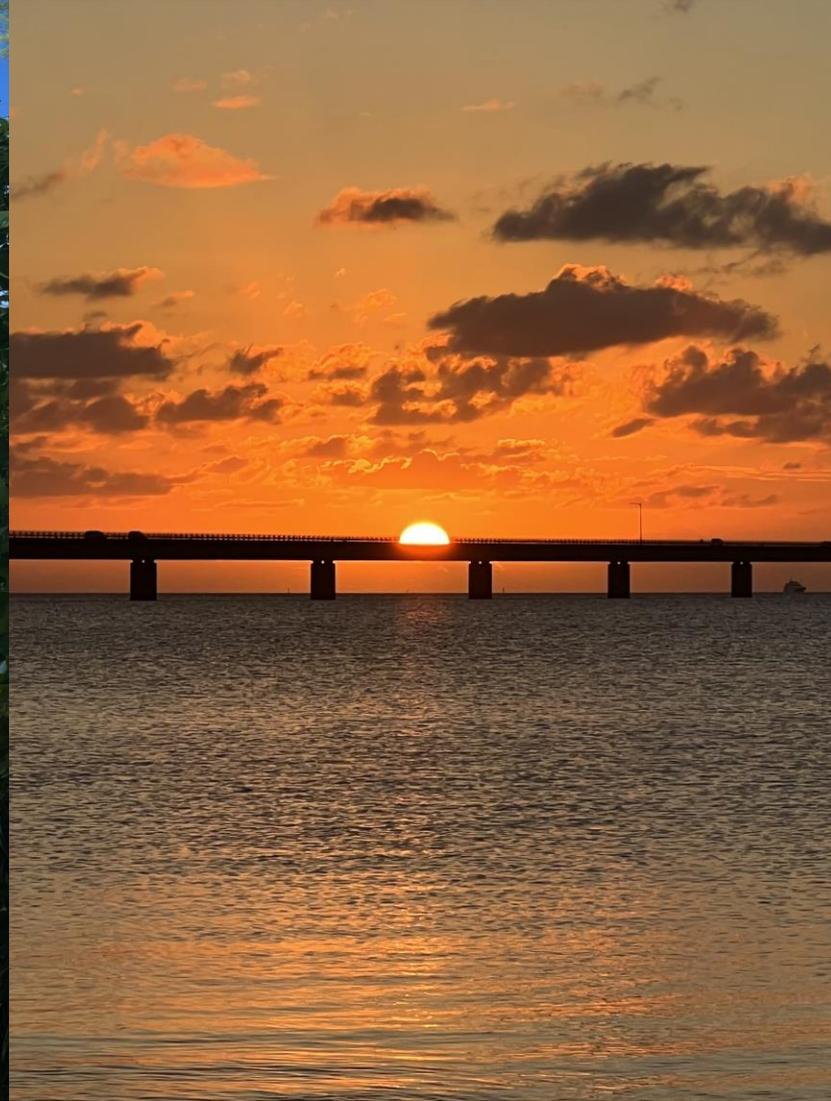
国内有数のリゾート地だからこ見えてきたワーケーションの形



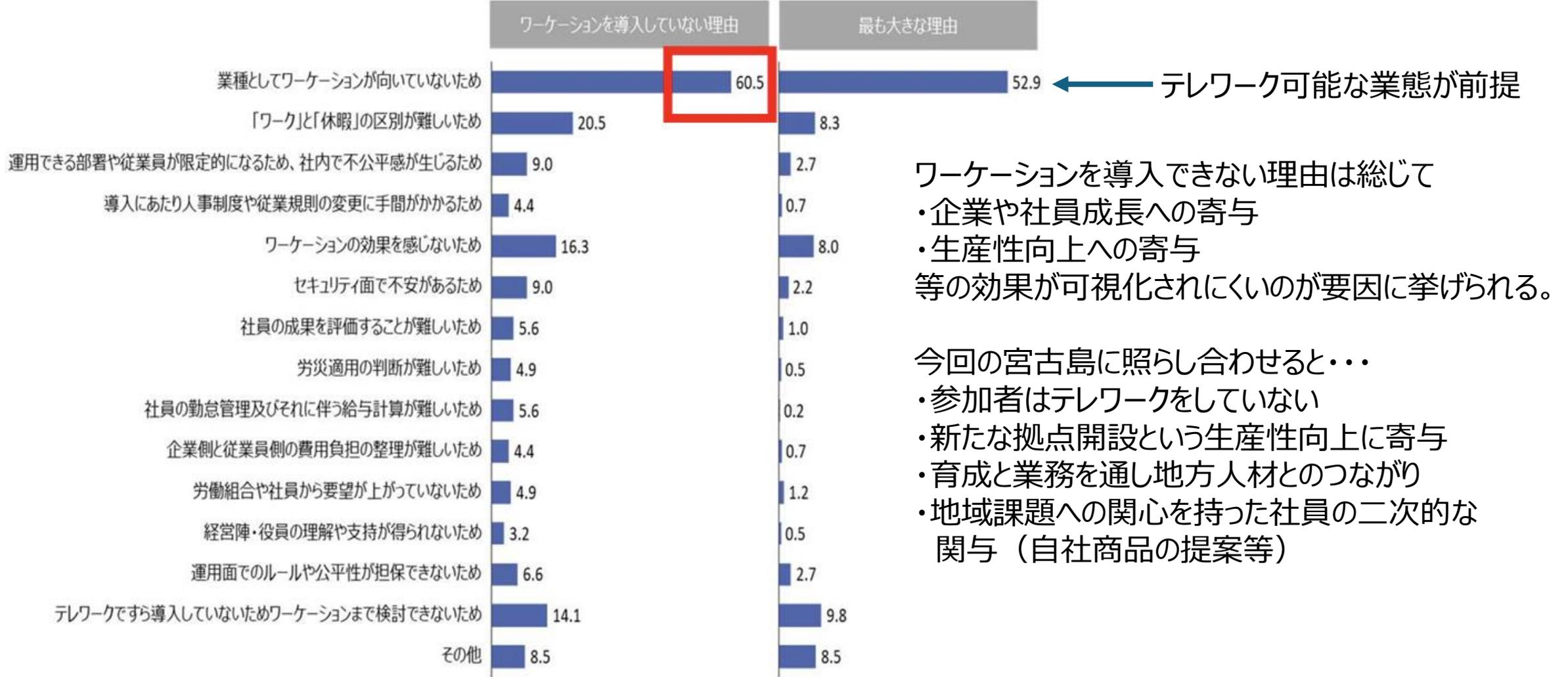
予想していなかった反応

東京から2社5名の社員が宮古島へ来訪中、スキマ時間で観光をしており、「癒やされた」という声を皆が挙げていた。

結果的にワーケーションになっていた。



ワーケーションの現状に目を向けてみる



← テレワーク可能な業態が前提

ワーケーションを導入できない理由は総じて
 ・企業や社員成長への寄与
 ・生産性向上への寄与
 等の効果が可視化されにくいのが要因に挙げられる。

今回の宮古島に照らし合わせると・・・
 ・参加者はテレワークをしていない
 ・新たな拠点開設という生産性向上に寄与
 ・育成と業務を通し地方人材とのつながり
 ・地域課題への関心を持った社員の二次的な
 関与（自社商品の提案等）

N=410

三者関与によるそれぞれの成長やベネフィット創出に今後注力する

この島を 仕事で 応縁しませんか？

おうえん

島の在宅テレワーカーへ仕事を依頼することで
島に仮想オフィスを開くことができます
そのオフィスはハコではなくヒトのつながりです
この島とビジネスで縁を創りませんか？

お仕事のご相談・ご依頼は
こちらまで

island
Connect
Okinawa 沖縄県全離島のテレワークプラットフォーム
アイランドコネクト沖縄
<https://icokinawa.com>

パソコンでできるお仕事はすべて対応可能です

アイランドコネクトオキナワ事務局 【受付時間 9:00~18:00】電話:070-5271-9824 / メール info@icokinawa.com
運用元 (株)ブルー・オーシャン沖縄

